神奈川支部報

神奈川支部報　第　9　号
発行日：２０１８年４月１日
発行者：込田伸夫
発行所：公益社団法人日本山岳会神奈川支部
横浜市青葉区若草台 2-58　込田方

丹沢おぼえがき（１）

近代登山以前－山伏の歩いた道

砂田定夫

今年は明治維新からちょうど 150 年目になるが、丹沢山地における近代登山の歴史は明治維新以後のことである。しかし、それより前に何百年もの間丹沢の山々を跋渉していた人々がいた。山岳信仰に生きた修験者（山伏）たちである。丹沢の近代登山史に触れる前に、そのような人々のたどった道を一瞥しておくのも興味あることだと思う。

“滝行”に見られるような修行も行われたが、大峯山奥駈けのように尾根道が基本だった。7 世紀に伝説的な役小角（えんのおづぬ、役行者ともいう）が関わったと伝えられる八菅山を中心とする八菅修験者が広範囲に活躍し、経ヶ岳・華厳山の尾根や飯山白山、辺室山、大山三峰山などの山稜で修行した。

相州大山は雨をもたらす聖山として、雨降山（阿夫利山）などとも呼ばれ、古くから崇められた。巨石信仰としての石尊大権現と、大山寺を開いた僧良弁（ろうべん）による不動尊信仰が融合し、神仏混淆として繁栄したのである。大山修験者は大山の雷ノ峰や北尾根、仏果山・経ヶ岳、表尾根から主脈への奥駈けコースなどで山岳修行を行った。有名な日向薬師は役小角や良弁と同時代を生きた僧行基（ぎょうき）の開創であるが、日向川を中心とした修験集団も活躍した。

江戸時代になると、徳川家康による慶長の改革が実施され、大山修験は様変わりする。清僧以外の修験者たちは下山させられ、彼らは御師となって大山講の布教活動や宿坊経営を行い、信仰を名目にした旅行ツアー“大山詣り”を繁栄させるという結果を生んだ。最盛期、山麓の御師の家は 166 件もあったという。江戸時代になると、役行者の流れをくむ日向修験の山伏たちは、大山から表尾根、主脈への峯入り修行を活発に行った。昭和 38 年に発見された『峯中記略扣』（ぶちゅうきりゃくひかえ）という古文書には、日向修験者のたどった行者道が明確に記述されている。大山山頂から門戸口へ下り、表尾根をたどって尊佛山（塔ノ岳）、彌陀ヶ原（丹沢山）を経て釈迦ガ嶽（蛭ヶ岳）に達し、青根に下ったという。今でもこのコースには、「行者」「大日」など修験者たちを偲ばせる山名が残っていることはご承知の通りである。山中では門戸口、烏尾山付近、塔ノ岳、不動ノ峰付近に泊まっているので、祈祷行事を行いながら４泊５日かけての奥駈けだった。修験者の山岳修行は、1872（明治５）年の修験道廃止令施行まで続いた。

（註）修験の系統と行場ルートについては、城川隆生著『丹沢の行者道を歩く』を参考とした。

↑大山阿夫利神社下社

山行報告

城山・幕山　かながわ山岳誌　（Ｌコース）

平成 30 年 3 月 10 日（土）

今にも雨が降りそうな怪しい雲行きの中、10:32、城山入口バス停で下車。道路は濡れており、雨が止んだばかりといった状況だった。落葉が積もった登山道を進み、城山へと向かう。

城山頂上は、景色が広がる場所で、晴れてい

れば大島、初島などが望める場所だったが、残念ながらガスに囲まれて何も見えず。

頂上を出発し、石畳の道を進んでいくと、ガスが消えて、椿台手前では、利島や新島が眺められた。ちょうど昼前になったので、椿台で昼食とする。大島の手前に初島が浮かぶ光景を見ながら、パンをかじる。

↑城山山頂

しとどの窟では、どこに頼朝が隠れたのだと、言いたくなるほど、目の前の窟では、隠れるような場所がなかった。だが、案内板によれば、関東大震災の時、この窟は、入口が崩れたとのことで、ちょっと納得。

その後、滑りやすい細い登山道を下っていく。林道に出たら、歩き易くなるとともに前方に梅林が見えてきた。早めに散策路に入り、梅林や椿を近くで見ながら、観光客に混じって幕山の麓を進む。

↑幕山山頂

やがて、梅林が終わり、幕山への登りとなる。これが、結構、きつい登りとなった。14:30、幕山頂上に到着。すでに時間が遅いせいか、パーティは、3組程度しかいなかった。だが周囲にガスはなく、真鶴半島を見下ろす光景を堪能する。下山路は、同じ道を下り、15:26、売店のあるエリアに到着。あとは、ゆっくり下っていくと、臨時バスに殆ど待ち時間なしで、乗ることが出来た。

今日は、舟根、渡辺両氏からコナラ、イヌシデ、イヌガヤなどの樹木を聞き、大島や真鶴半島など、海を見ながらの山歩きとなったことで、極めて印象的なものとなった。（永井泰樹）

（コースタイム）城山入口 BS(10:34)～(10:58)城山(11:08)～(11:43)椿台(12:06)～(12:20)しとどの窟(12:33)～(13:10)一の瀬橋～(13:13)幕山登山口（西側散策路入口）～(14:30)幕山(14:43)～(15:34)幕山公園。(休憩時間を含む)

（参加者）舟根章、渡辺正敏、植木貞一郎、永井泰樹

円海山　　かながわ山岳誌（Lコース）

平成30年2月10日

本コースは、ＪＲ根岸線港南台駅から横浜市の尾根を鎌倉霊園まで歩き、朝比奈切通を抜けて鎌倉駅へ向かう初心者向けのハイキングコースである。

港南台駅から瀬上沢小川アメニティの里山を歩き、一気にいっしんどう広場まで登ると、すぐに円海山に到着する。円海山は、周囲を金網の柵に囲まれ立ち入ることはできない。二等三角点も確認できなかった。

早々に立ち去り、横浜市最高地点の大丸山（おおまるやま）標高156.8mに向かう。ハイキングコースなので老若男女のハイカーで賑わっている。頂上は人が多く、関谷奥見晴らし台へ移動し昼食とした。見晴らし台からは東京湾が一望でき三浦半島の尾根を実感できた。さらに進み鎌倉霊園へ下り、霊園を抜け朝比奈切通に向かう。両岸が掘削された鎌倉7切通の一つで、歴史を実感できるルートであった。（田島剛）

（コースタイム）港南台駅9:04出発―円海山10:36―大丸山 11:32―奥見晴らし台 11:44―鎌倉霊園12:55―朝比奈切通13:46―朝比奈バス停14:04

（参加者）森武昭、石村日満子、冨岡一郎、廣島孝子、舟根章、芦澤敏夫、稲垣哲郎、田島剛、葉上徹郎、中島良行

↑大丸山山頂

檜岳山稜　かながわ山岳誌（Ｈコース）

平成 30 年 2 月 24 日

本コースは寄のバス停から櫟山―栗ノ木洞―鍋割山―雨山峠―檜岳山稜―秦野峠―寄バス停までぐるっと登山道を歩く周遊コースである。

寄の満開なロウバイ園を過ぎ登山道に入る。櫟山―栗ノ木洞―後沢乗越までは、緩やかで静かな尾根を進む。

↑鍋割山山頂

乗越から鍋割山名物のうどん目当ての登山客が多くなり、賑わいをみせてきた。鍋割山で長居もせずに、急斜面を鍋割峠へ歩く。積雪が数ｃｍ残り一部凍結ケ所もあり、慎重に下る。ここから雨山峠までは、急斜度の長い鎖場が３ケ所続く難所である。峠で小休止し、雨山へのきつい登りに精根もつきる。

雨山からは、比較的緩やかな尾根を檜岳（ひのきだっか）、伊勢沢ノ頭へと歩く。一人の登山者も見かけず静かな尾根でお勧めである。秦野峠まで下り、林道を長躯寄バス停まで歩くと辺りは真っ暗となっていた。（田島剛）

（コースタイム）寄バス停 8:22 出発―栗ノ木洞 10:27―鍋割山 11:57―雨山峠 13:41―雨山 14:18―檜岳 14:49―秦野峠 16:13―　寄バス停 18:22

（参加者）廣岡正敏、永井泰樹、田島剛

赤倉妙高スキー

平成 30 年 3 月 9～11 日

3/9　悪天候のため宿泊先で休む。その後、秋山会員のみ 90 分程度スキーを楽しんだ。

3/10　スキー組:石村実会員は 9:00～13:30、石村日満子会員と秋山会員は 9：00～15：30 ゲレンデスキーを楽しんだ。残り３名のスノーシュー組みは以下の山行を楽しんだ。スキー場跡の入り口 10：10～10：50 スキー場上部の施設 10：55～11：50 大平山頂上 12：20～13：00 スキー場上部の施設～13：30 スキー場跡の入り口　14：00 宿泊先着

3/11　森夫婦以外は朝帰京。森夫婦は 9：00～10：45 スノーシューハイキングを楽しんでお昼に帰京。

（参加者）森武昭、込田伸夫、石村実、石村日満子、森静子、秋山典彦

役員会報告

１月役員会

日時：1 月 18 日（木）19：00

場所：神奈川工科大学　横浜事務所

報告事項

・会員の異動

・山行報告

　日影山、厚木白山

審議事項

・山行計画

　西丹沢大杉山、円海山

・ヒマラヤプロジェクトについて

・支部総会について

・山行の定義および計画書の提出について

・平成 30 年度支部事業報告書・支部予算書について〕
・備品等の購入について
・登山用品の寄贈について

2 月役員会
日時：2 月 15 日（木）19:00
場所：神奈川工科大学　横浜事務所
報告事項
　・会員の異動
　・山行報告
　・西丹沢大杉山、円海山
審議事項
・山行計画
　檜岳山稜、湯河原幕山、赤倉妙高スキー
・支部総会について
・第 34 回全国支部懇談会（7/21-22）
・山行の定義および計画書の提出について
・平成 29 年度支部事業報告書
・会計報告書の提出依頼について
・備品等の購入について
・その他

3 月役員会
日時：3 月 15 日（木）19:00
場所：神奈川工科大学　横浜事務所
報告事項
　・山行報告
　　檜岳山稜、湯河原幕山、赤倉妙高スキー山行
　審議事項
　・山行計画について
　　ミツバ岳、大野山
　・平成 29 年度会計報告
　・支部総会について
　・『山岳』支部活動報告の提出依頼について

支部会員動静
入会
16276　渡辺正敏
13702　宮守健太
13263　丸山さかえ
13588　上野正樹
退会
5772　井村英明（物故）
14238　瀬戸英隆（退会）

今後の予定
<u>平成 30 年度支部総会</u>
日時：5 月 19 日（土）13:30～16:15
（13:15 受付開始）
場所：神奈川大学横浜キャンパス 3 号館
305 号室
日程：記念講演会
神奈川支部総会
終了後懇親会を予定

※詳細は 4 月発送の案内状を確認のこと。
・案内状は今年度より電子メールでお送りします。出欠の返信（欠席の場合は委任状も）は**<u>メールでご返信</u>**ください。
・通信費（年間千円）を支払済の方は郵します。郵送の方は昨年度同様、ハガキをご返送ください。

役員会
4 月 19 日（木）19 時～
5 月 17 日（木）19 時～
場所は神奈川工科大学横浜事務所

あとがき

1 月 25 日、神奈川支部の山行委員長であった井村英明さんが急逝されました。2 年前の神奈川支部発足から支部の立ち上げにご尽力いただき、他支部との交流会も積極的に出席され、支部の活動をリードしていただきました。あまりに急な旅立ちに言葉もありません。ご冥福をお祈りするとともに、次号では追悼文の掲載を予定しております。（泰）

発　行：日本山岳会神奈川支部　支部長：込田伸夫
編集者：植木貞一郎、多田友行、長島泰博
平成 30 年 4 月 1 日　　次回は 7 月 1 日発行予定